

# 農業土木は魅力的でない？ Isn't Nogyodoboku Charming?

小島 信彦\* 登尾 浩助\*

Michihiko KOJIMA \* Kosuke NOBORIO \*

## 1 はじめに

明治大学農学部は生命科学科開設による 2000 年度の改組により、農業土木分野は「農学科農業土木・緑地学専修」という独立した組織から「農学科」の中の一分野という位置づけに変わった。それに伴って学生の意識も変わってきているように見受けられる。

また、農学科は 2008 年度に JABEE の認定を「農学一般関連分野」で受けたところである。本報では、農学一般で受けることのメリット・デメリットに触れ、都市型マンモス大学における教育・研究について考えてみたい。

## 2 農学科農業土木・緑地学専修から農学科へ

先に述べたように本学では 2000 年度に改組を行い、われらが農業土木分野は独立した組織から農学科の中の 3 研究室に過ぎなくなった。言い換えると、3 年次にこの 3 研究室に所属した学生が一応、農業土木系の学生とみなせるということになる。改組前は、専修ごとの定員が入学時にあり（入学後選択を行うのではない）、4 年間専修の仲間と勉学に励むというシステムであった。

農学科として入学し、3 年次に方向性を決めるという現在の方式は、土木系以外の生物系の科目も履修せざるを得ないので、幅が広がり、土木系にとっても不可欠になってきた生物に関する基本的な知識が得られるメリットがある。とくに明治大学の農学科には、植物・動物・緑地関係があり非常に幅広く履修できる。一方、数物系が苦手だから農学部という学生（実際には苦手ではない）が多く、数物系が苦手では勤まらないように見える（教員は学生の能力が十分にあることは分かっているが）農業土木系は敬遠されがちである。研究室に入ってから残念ながら、教員の努力不足かもしれないが、農業土木への帰属意識は低い。また、農業土木専修として 4 年間の教育を行うと、語学や基礎科目は全員が受けているので、70 人（当時の定員は 70 名だった）に一体感があつた。筆者の一人小島はこの専修の出身であるが、学生ときはほぼ全員の名前と顔が分かっていた。現在の農学科の定員は 130 名と多く、2 年次までは科目の選択が学生によりばらばらなため、お互いの認知度が低い。

帰属意識の変化は農業土木系学生の就職先にも現れている。図 1 に年代ごとの就職先の割合を示した。3 年間の合計

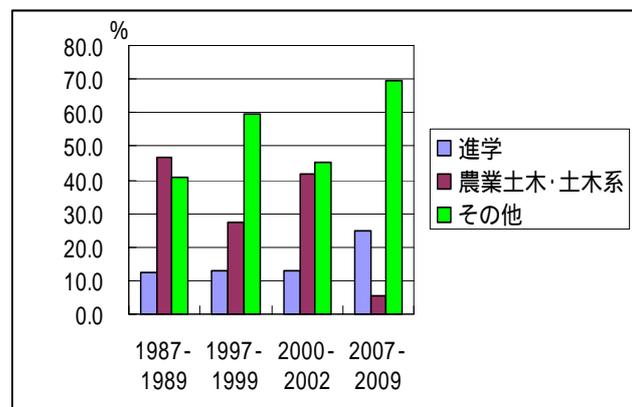


図 1 農業土木系学生の就職先

とし、最近の3年、10年前、20年前および改組前の最後の3年間を示した。

農業土木系・土木系へ就職した学生が、最近激減したことが分かる。また、進学率が急増加している。もともと、他の分野への就職者がそれなりにいたが（全員が農業土木志向では就職先がいくらあっても足りない）、明らかに変わってきている。進学者で他分野へ就職する者も多い。

都市型の大学で生き物や緑には関心があっても農業（家庭菜園ではない）が身近になく、ましてや「農業土木、何それ？」「公共事業でしょ」という学生に対し、枠をつくって放り込まない限りこの傾向が続くと考えられる。それでは、JABEEは農業土木に対する学生の関心向上に寄与しているのか？

### 3 JABEE受審

農学科では2008年度に「農学一般関連分野」でJABEEの認定を受けた。農学科には認定を受けた「食糧生産・環境コース」と認定外の「総合農学コース」があり、3年次から選択して所属することになる。

当初、農業土木系の研究室では、「農業工学関連分野」での受審も検討した。しかし、カリキュラムに必修科目が多くなり学生の履修科目選択の自由度を狭め、特徴が出せなくなることから、農学科の一員として、農学一般関連分野での受審の準備を進めてきた。下記に学習・教育目標を示す。

#### <食糧生産・環境コース 学習・教育目標>

- A 地球環境の保全と多様な文化の共存を考える素養と能力
- B 技術が環境および人類の持続的生存に及ぼす影響について理解し、社会に対して責任ある行動がとれる自立した技術者の倫理観
- C 生き物と環境に関わる基礎的な知識と応用能力
- D 自然環境と調和した持続的食糧生産システムおよび人類の生活環境に関する知識と技術
- E 都市近郊における食糧生産と環境保全を通して人類の生存を持続的に考える能力
- F 日本語によるプレゼンテーションおよび議論する能力と国際的に通用する思考力
- G 与えられた条件の下で社会の要求に応じながら物事を主体的に考え、表現し、行動する能力

これからも分かるように、農学科の幅広い分野を反映して、かなり抽象的な目標となっている。それでも、専門を生かして就職する学生にとっては、どの分野であろうとJABEEコース修了は有利であろう。しかし、2008、9年度と学生を送り出したが、今のところ農業土木系の研究室の状況に変化は見られない。また、学科全体のJABEEコース選択比率と農業土木系の比率はあまり変わらず、予想はしていたが農業土木へ目を向ける手段にはならなかった。むしろ、多人数教育の中で、本当の意味で技術者としての倫理観を植え付け社会に送り出すことができているのか、不安が大きい。

### 4 今後の農業土木教育に向けて

以上報告してきたように、他の大学でも生じていることだと思うが、学生の農業土木への帰属意識が低下している。この分野が就職に有利ならばともかく、マスコミ報道を始め、農業土木に対する逆風の中では、農業土木系で就職しろ、とは言えない状況にある。この際教員の方が意識を変え割り切って、農学科の中の数物系教育として農業土木教育を行うことが必要であろう。